

極北の海と鉄の路



ロシア・ハバロフスク市在住

岡田 和也



バレンツ海の灯台の切手

先日、郵便局できれいな切手が目にとまりました。『国際極年2007-2008』という透きとおる氷のような3枚綴りの記念切手でした。5月3日付の新聞『イズヴェースチヤ』によりますと、この国際極年（IPY、International Polar Year）は、第1回国際極年（1882-83）125周年、第2回国際極年（1932-33）75周年、そして、国際地球物理学年（IGY、日本では国際地球観測年）と称された第3回国際極年（1957-58）50周年にちなんで国際科学会議（ICSU）と世界気象機関（WMO）によって宣せられたもので、その枠内での活動が3月1日にスタートしました。今年最初のロシアの調査隊は、4月6日、北極から17マイルの地点で作業に着手し、北極南極研究所および科学アカデミー海洋学研究所の学者たちが、北極の海の氷や自然にたいする地球温暖化の作用の調査を開始しました。今後、原子力砕氷船『アカデミック・フョードロフ』号が陸棚の外縁の調査にむかい、そのあと、学者たちが潜水装置をもちいた北氷洋の海底の調査にとりくみます。また、あたらしい漂流ステーション『セーヴェルヌイ・ポーリュス（北極）35』が広範な調査を展開することになっています。ちなみに、初めて白海からベーリング海へと北方航路を完走したのは、75年まえの1932



記念切手『国際極年2007-2008』（漂流科学ステーション『セーヴェルヌイ・ポーリュス（極海）』／氷蓋の調査／北極の文化および自然の遺産

年の航海で白海にのぞむ港湾都市アルハーンゲリスクから横浜まで至ったロシア（当時のソ連）の砕氷汽船『アレクサンドル・シビリャコフ』号で、2500マイルを65日間で走破したそうです。

さて、北極の海といえば、先ごろ、モスクヴァで、ベーリング海峡をくぐる鉄道トンネルをそなえた『大陸間幹線（TKM）ユーラシア・アメリカ』というロシア経済発展通商省が立案したグローバルなメガプロジェクトが紹介されました。この幹線は、ロシア極北の都市、ヤクーツク、マガダレン、アナードイリ、ウエレン、アメリカのノーム、フェアバンクス（いずれもアラスカ州）、カナダのフォートネルソン（ブリティッシュコロンビア州）を結ぶもので、102キロメートルの海底トンネルをふくめた全長は6000キロメートルです。高速鉄道、自動車

幹線、送電線、ガス石油パイプライン、光ファイバー通信ラインからなる単一輸送回廊の建設を見込んでいるこのプロジェクトの実現には、ある資料では650億ドル、べつの資料ではその2倍以上の資金が必要となり、建設作業は10年から15年を要するというのです。また、マクシム・ブイストロフ連邦特別経済ゾーン管理局副長官の話によりますと、おそらく国家と民間のパートナーシップが始動し、コンセッション（事業権）方式のスキームが用いられるものと思われます。なお、経済発展通商省生産力研究評議会の試算によれば、費用は10年で回収され、国内総生産が平均0.3パーセント増加するほか、シベリヤ、極東、北米のエネルギーシステムの統合によって年間200億ドルが節約される見通しだということです。